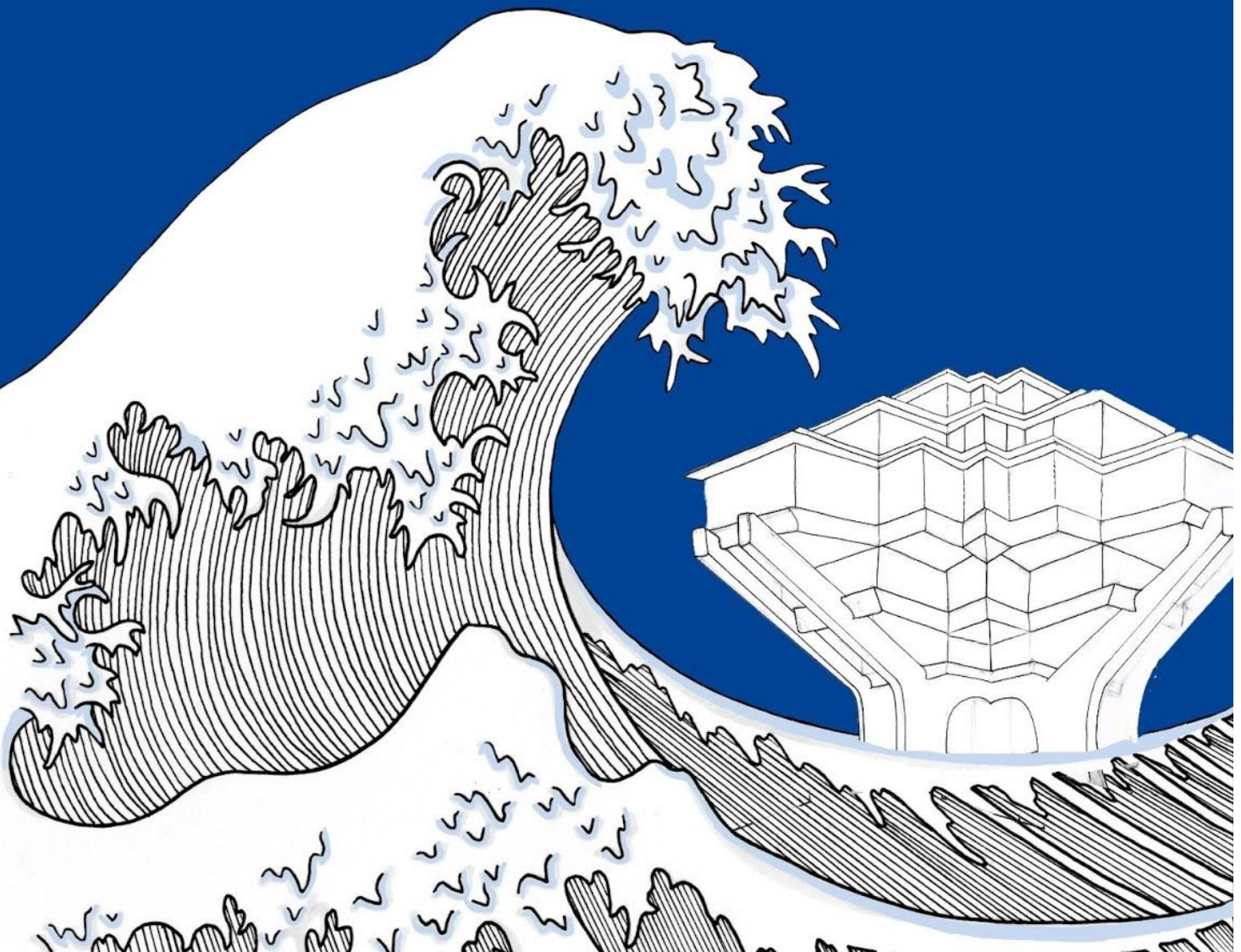


# UCSD津波防災訓練 プロジェクト

危機感を持つことの大切さ



# 目次

p2. 冬学期のリサーチのまとめ

p3. イベントのゴールと流れ

p4. プロジェクトのコンテンツ「イベント内容」

- ・ ①ポスター
- ・ ②避難バッグの説明
- ・ ③救急箱の説明
- ・ ④ハザードマップ作成
- ・ ⑤津波避難TIP
- ・ ⑥クイズ

p11. イベントの結果報告

p12. イベントの様子

p14. メンバーの紹介と一言ずつコメント



## 冬学期のリサーチのまとめ

今学期私達は「津波から無事に逃げ隊」という津波避難プロジェクトをしました。これは冬学期、つまり日本語135Bから始めた津波についてのリサーチとイベント企画を具現化したものです。

冬学期のリサーチによると、日本は津波の常襲国であって、津波についての研究や対策も世界中で優れています。昔から津波による被害がよく起こっているため、日本では津波防災が大きな社会問題になり、被害を抑えるために色々な対策を考えてきました。政府から各地方まで、数多くの津波防災団体が存在し、防災講演、避難訓練などの活動をしています。しかし、このような対策は完璧ではありません。311大震災の時に、避難準備不足や避難方法が間違ったことで遭難した人も多くいました。ですから、私達は日本の津波対策から経験と教訓を学び、サンディエゴ、特にカリフォルニア大学サンディエゴ校で実行できそうなプランを考えました。UCSDに來たばかりで英語に自信がない、もしくは津波防災について英語でリサーチしたことがない日本人の留学生達のために、このプロジェクトを全部日本語を使って行うことにしました。



まず、冬学期私達はインターネット調査で日本での津波防災対策を調べました。子供を対象者にする対策の一つは、「忍たま乱太郎」など人々に馴染みがある作品のキャラクターを使って津波避難の知識を宣伝して、さらに対象者の子供にハザードマップを作らせることでした。このハザードマップは専門的なものではなく、ただ子供に自分が思った安全な場所と危険な場所を地図にマークさせて、思考の過程を通して危機感を持たせるものです。また、各地方の防災団体は、専門家を呼んだ防災講演会をさせてもらうことや、定期的に避難訓練をすることや、避難所を建設することなどを行っています。

さらに、冬学期ではインターネット調査だけではなく、実際に東日本大震災で津波の被害が大きかったエリアの近くに住んだことがある日本人の方にインタビューし、普段から津波避難についての準備と親戚や家族の避難経験などを聞きました。インタビューの結果、対象者の二人共普段から非常持ち出し袋を準備していて、避難訓練も参加している上で、避難所も決まっています。日本人の方は津波と地震の避難準備をしている方が多くいます。これは日本と同じく、津波と地震がよく起こるサンディエゴに住んでいる人も学ぶべきことです。しかし、その一方で、二人の対象者の親戚の避難経験から、危機感を持っていない日本人もいることや、逃げ遅れそうになった人がいたことも分かり、普段から危機感を持って避難準備をすることや、実際避難する時に正確な避難方法を身につけることや時間を無駄にしないことが大切だということが確かめられました。これもサンディエゴに住んでいる人が知るべきことだと考えています。

これらの冬学期のリサーチ結果を活かして、今学期のプロジェクトのゴールやイベント内容を考えました。



## イベントのゴール

### 1. イベント参加者の皆さんに津波への危機感を持たせる。

サンディエゴに津波への危機感を持っている人は多くないと思います。津波への危機感を持ってもらえるようになれば、という思いでこのイベントを企画しました。自分のまわりの人々の命を津波から守れるようになったら良いと思います。

### 2. 津波があったときの避難の方法を伝える。

大学に津波が襲ってきた場合、どの建物にどうやって逃げたら安全かをハザードマップと一緒に作成したり、避難訓練を通して伝えます。実際に参加者の方々自身がワークショップを行うことで、より覚えてもらうことがねらいです。

## イベントの流れ

### 1. 最初の挨拶：ファム担当

メンバーの自己紹介とJAPN 135Cの紹介。

### 2. イベントの説明：ザオ担当

プロジェクトの紹介、ゴール、目的の説明。

### 3. 避難バックの説明：ザオ担当 (別紙②参照)

避難バッグに入れる物の基準・入れ方・バッグの置き場所を説明。

### 4. 救急箱の説明：ウスタリス担当

救急箱に入れる物と使用方法を説明。(別紙③参照)

### 5. 避難バックの作成：ザオ担当

非常持ち出し袋を参加者の皆さんと一緒に作る。

### 6. ハザードマップの説明と作成：ファム、ウスタリス、マッゴウ担当 (別紙④参照)

地質学の教授から教えてもらった基準を使って、UCSDキャンパスの危険な所と安全な所を説明。説明の後、参加者の皆さんに自分用のハザードマップを作ってもらう。

### 7. 津波避難の説明：キム、デイビス、マッゴウ担当 (別紙⑤参照)

津波や地震の場合の避難方法と、避難訓練のシナリオを説明。

### 8. 避難訓練：全員担当

津波が来たシナリオで、実際に皆と避難訓練をする。避難訓練の後、クイズを受けてもらう。(別紙⑥参照)

### 9. 終わり

最後の挨拶と記念写真を撮る。





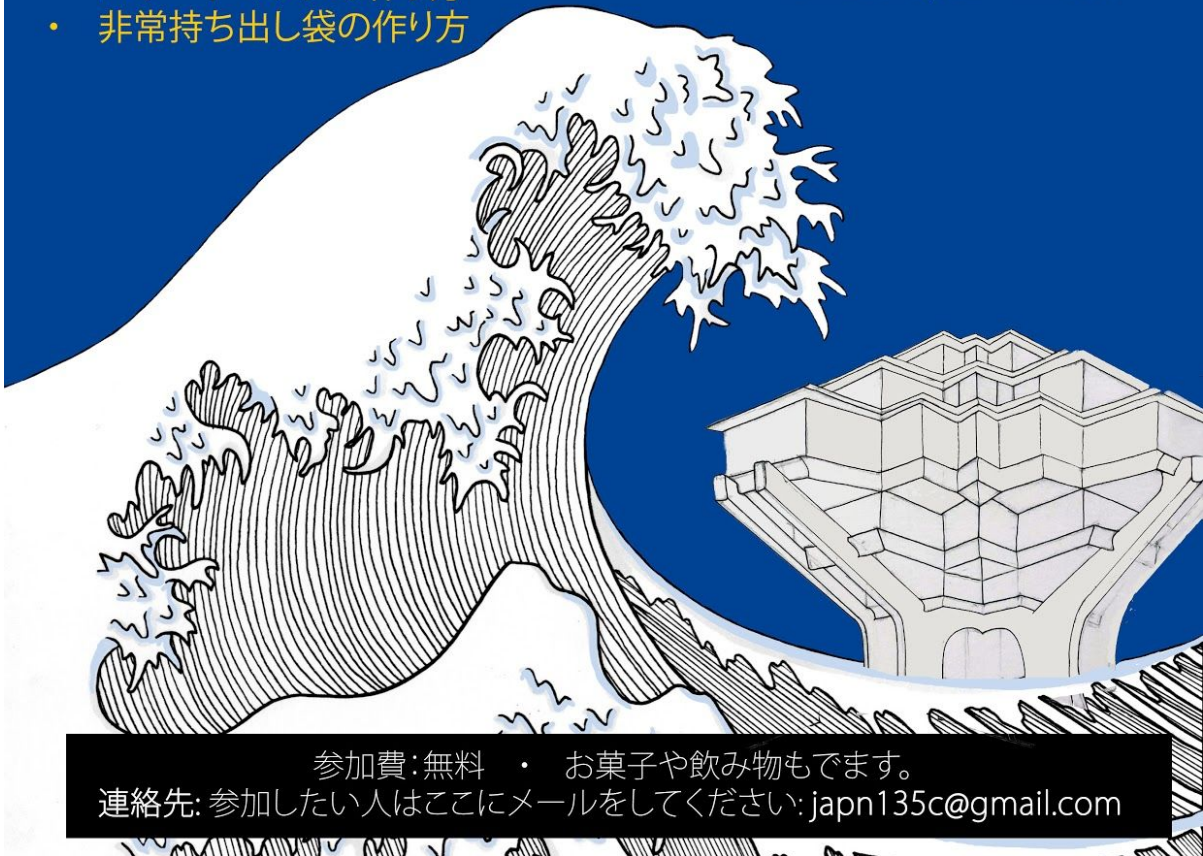
# つなみ 津波 から無事に 逃げ隊

今、津波が来たらどうしますか？UCSDの安全な所を知っていますか？「もしも」は今日かも知れません。  
UCSDの人の命を守りましょう！

イベント1：5月5日(木) HSS1305 6:00-7:20 PM  
イベント2：5月20日(金) HSS2321 6:00-7:20 PM

- ・ 避難訓練の方法
- ・ ハザードマップの作り方
- ・ 非常持ち出し袋の作り方

Provided by: JAPN135C



参加費:無料 ・ お菓子や飲み物もできます。  
連絡先: 参加したい人はここにメールをしてください: [japn135c@gmail.com](mailto:japn135c@gmail.com)

別紙②「避難バッグの説明」

## 避難バッグの作り方 —津波から無事に逃げ隊ハンズオンイベント—

津波の避難を成功させるために、危機感を持つことが大切です。そして、これを実現するには、日頃からの準備が必要です。その中でも最も大切なことの一つは避難バッグを作って、家に置くことです。このマニュアルでは、避難バッグの準備の仕方を4つのステップに分けています。



### ステップ1：

#### a.非常時にあった方がいいもの

非常食

飲用水

懐中電灯と電池

現金

雨カップ

カッターナイフやハサミ

ID

毛布

重さの合計：男性15kg 女性10kg (目安)

ライター

ハザードマップ

動きやすい服

ティッシュ

手袋

ラジオ

救急箱 (first aid kit)

マーカー

#### b.このイベントで実際に作るサンプルバッグの持ち物リスト：

ミニサイズ飲用水

ミニサイズ懐中電灯

ミニサイズ救急箱

Tシャツ

ティッシュ

ハザードマップ (キャンパスマップ)

現金&プラスチックジッパー袋

### ステップ2：物を入れる順番を考えます

a. 重くて壊れやすいものを先に入れます。

b. よく使うものを上に置きます。



### ステップ3：状況によって、入れる物を調整します

例：

a. 季節によってリストを変えます。例えば、寒い時期に防寒の服を入れるなどです。

b. 家族メンバーに高齢者や子供がいる時、子供用品や高齢者用品を考えて入れる必要もあります。

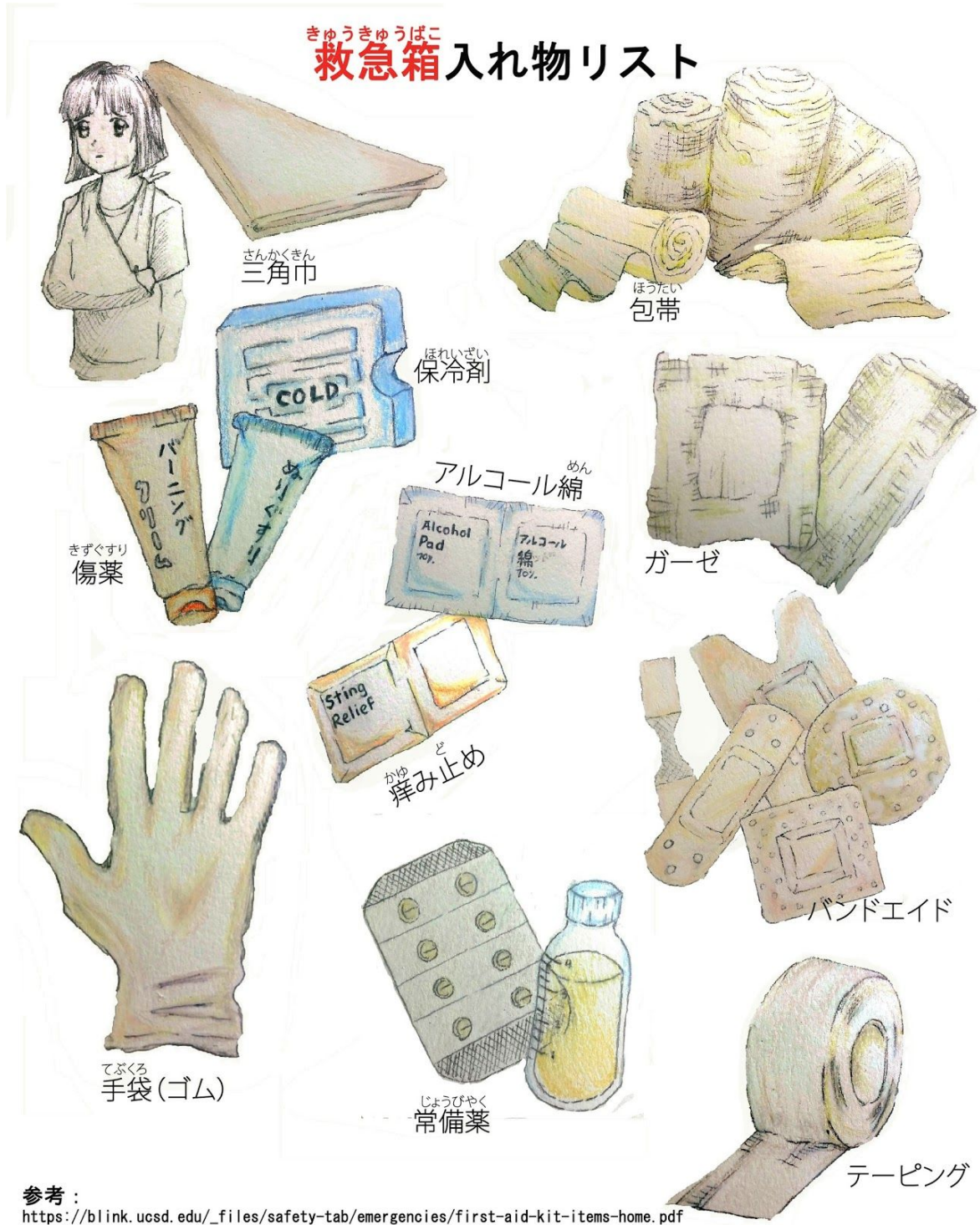
### ステップ4：持ち出し袋の置く場所を考えます

a.基本ルール：非常時にすぐに取りれるところに置きます。例：寝室、玄関

B.非常時にすぐに見つけられるように、暗い場所に置かないようにします。

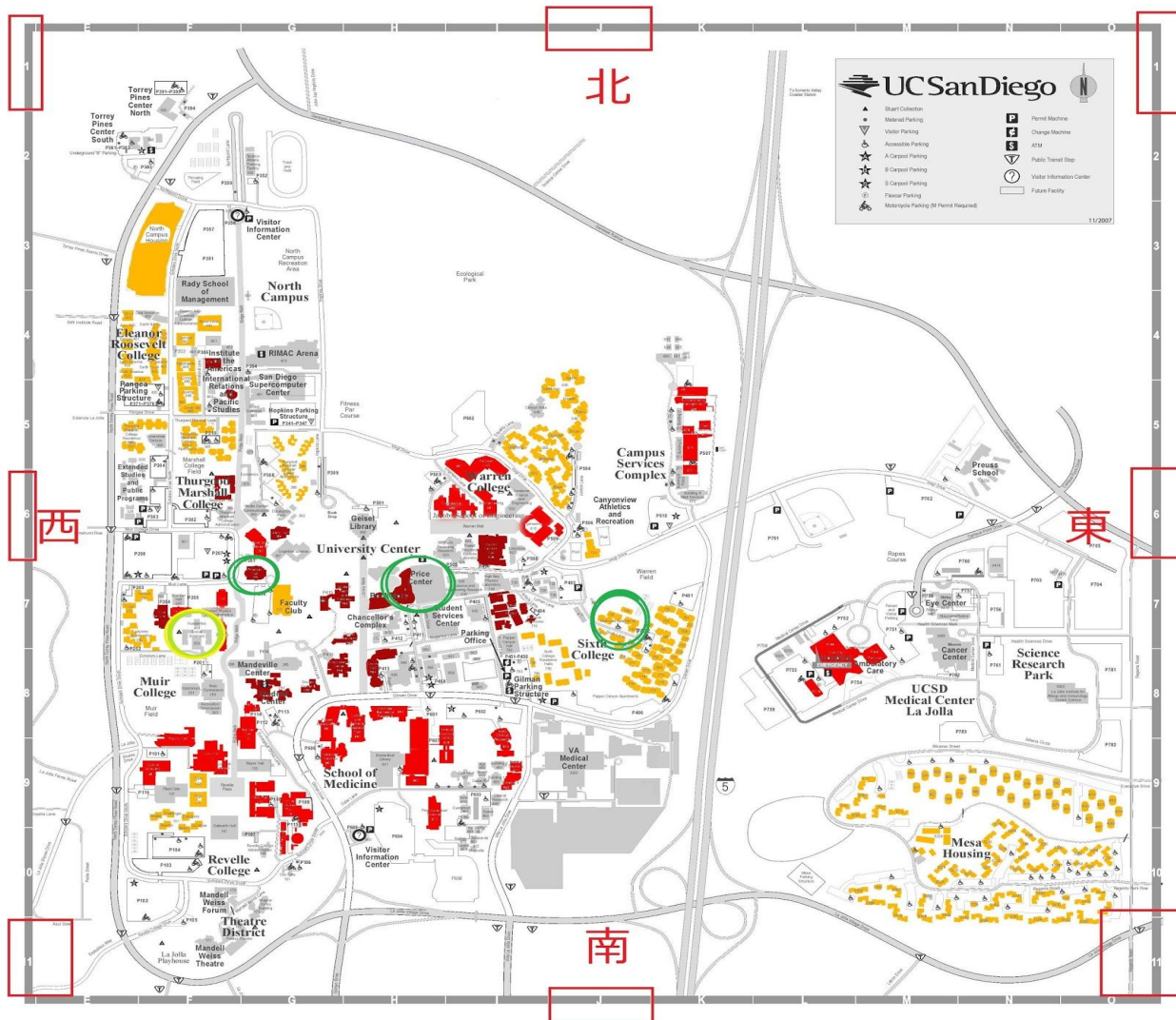


別紙③「救急箱の説明」





別紙④「ハザードマップ作成」



白地図のキャンパスマップを参加者全員に配布し、×や○や★をつけてもらうワークショップ。  
この地図は完成版のハザードマップ。

- 赤：化学薬品や危険物がある
- オレンジ：IDがないと入れない場所
- 赤茶色：2階までしかない建物

## 別紙⑤「津波避難TIP」

### 避難前:

- 避難場所と避難経路（ひなんけいろ evacuation route）
  - 避難する場所を決めましょう。
    - 30m以上の海拔（かいばつ）で、海から3km以上はなれた場所。
    - 避難できる場所は市のウェブサイトにかかれていたので確認できます。
  - 避難経路を決めましょう。
    - 車ではなく、**歩いて**行ける経路を決めましょう。
      - 車だと、じゅうたいで動けなくなる可能性があるため危険です。
  - 家族と離れていたら、どう連絡をとるか、**どこで会うか**なども、家族と一緒に決めた方が良いでしょう。
  - 防災グッズも用意しましょう。



津波注意



津波避難場所



津波避難ビル

### 避難時:

- 津波の前に地震が起こったら、**まずは地震から身を守ります！**
  - ビルの中にいたら、外と戸口(とぐち doorway)には**行かない**方が良いでしょう。
    - ドアの近くは物が落ちてくるか飛んで来ても、身を守ってくれません。
  - 体を低くして、自分の腕(うで)やまくら、本などで、頭と首を守ります。
  - 近くに頑丈(がんじょう sturdy)な家具や柱(はしら pillar)があったら、その下やそばに逃げると良いでしょう。
  - まどやガラス、何かが落ちる可能性がある場所は避けましょう。
- とても強い、あるいは20秒以上続いた地震の場合、津波が起こる可能性があるため避難ベルがなくても避難しましょう。
  - 津波が起こる前に必ず地震を感じるとは限りません。
- 防災グッズを持って、素早く、**決めておいた避難場所**に逃げましょう！
  - 貴重品(きちょうひん valuables)だけ持つように。
- ペットがいたら、ペットもつれて逃げましょう。



### -Word bank-

海拔（かいばつ）：above sea level

非常食（ひじょうしょく）：emergency rations

救急箱（きゅうきゅうばこ）：first-aid kit

毛布（もうふ）：blanket

### 参考資料：

Earthquakes. "Prepare. Plan. Stay Informed." Official website of the Department of Homeland Security <https://www.ready.gov/earthquakes>



## 「津波から無事に逃げ隊」 防災関連クイズ

問題1. 地震が起きたら、どうすればいいですか？

1. 外の様子が見れるように、窓のそばに行く。
2. 揺れている時に、外へ逃げる。
3. 体を低くして、自分の腕やまくら、本などで、頭と首を守る。
4. 家族や友達に写真やメールを送る。

問題2. 地震や津波が起こった時、避難場所や災害に関する情報を何で確認すればいいですか？

1. ラジオ
2. テレビ
3. インターネット
4. 防災無線

問題3. 次のうち、津波からの一番いい避難方法はどれですか？

1. 車に乗って、持ち物をできるだけたくさん持って避難場所に行く。
2. 素早く（すばやく）、冷静（れいせい）に決めておいた避難場所へ逃げる。
3. 退屈（たいくつ, bored）にならないように、ゲームを持って避難する。
4. 家族と連絡して、全員揃ったら一緒に避難場所に行く。

問題4. 津波が、どのくらいの早さで陸（りく）に来ると思いますか？

1. 1秒で0.1メートル進む
2. 1秒で1メートル進む
3. 1秒で10メートル進む
4. 1秒で100メートル進む

問題5. 津波が起こった時、避難する場所は最低、海から何キロメートル離れたら良いですか？

1. 1キロメートル
2. 3キロメートル
3. 5キロメートル
4. 7キロメートル



問題6. 地震が起こった時、揺れが最低何秒以上続いたら津波が起こる可能性がありますか？

1. 5秒以上
2. 10秒以上
3. 15秒以上
4. 20秒以上

問題7. オフキャンパスに住んでいて、大学の建物にアクセスがありません。津波が起こったら、どこに逃げたらいいですか？

1. 外に出る
2. サイエンスラボがある、7階までの建物
3. IDが必要な、10階建てのアパート
4. IDが必要ではなくて、サイエンスラボがない、3階の建物

問題8. UCSDのキャンパスは、ハザードマップにどのように書かれていますか。

1. 安全で、津波の避難をする必要が全然ない場所
2. 安全かどうかわからないグレーゾーン
3. 海の近くだから、津波があつたら避難をしたほうがいい場所
4. すぐに避難が必要な場所



問題9. 避難バッグの重さはどれぐらいが適当と思いますか？

1. 男性5kg 女性3kg
2. 男性10kg 女性5kg
3. 男性15kg 女性10kg
4. 男性20kg 女性15kg

### [答え]

問題1： 答え3.

問題2： 答え1.

問題3： 答え2.

問題4： 答え3.

問題5： 答え2.

問題6： 答え4.

問題7： 答え4.

問題8： 答え1.

問題9： 答え3.

## イベントの結果報告

イベント1： 5月5日（木曜日）

参加者： 16人

スタッフ： 9人

イベント2： 5月20日（金曜日）

参加者： 15人

スタッフ： 10人

---

報告者：トリッサ・デイビス、ドンウ・キム

### 「津波から無事に逃げ隊」イベント報告書

#### 記

津波から無事に逃げ隊プロジェクトは全体的に成功したと思います。イベントの時、参加者が盛り上がっていた様子でしたし、私達発表者も、緊張しながらも楽しくイベントを実行したと思います。2回目のイベントは特に、スライドに参考資料を付け加えたり、自分担当の、避難訓練のコツのスライドに質問を入れたりして、1回目のイベントよりパワーアップしたと思います。両方のイベントでは、時々資料を配り忘れてたり、発表が時間通りに進まなかったりして、少しテンポが崩れそうになりましたが、最後は計画通りに終わったので、良かったと思います。このイベントをすることによって、自分の担当している仕事に責任を持ちながら、チームワークの大切さを学べてとても良い経験だったと思います。（デイビス）

---

#### 1) 仕事

私はイベント実行員の一人だったので、イベントのプロモーションを他の日本語のクラスでしました。そして、イベントのための準備をクラスの皆としました。イベントの時、津波避難のコツを参加者の方々に教えたり、避難訓練の時、参加者と一緒にHSSの八階まで階段で上がったりしました。

#### 2) 上手くいったこと、上手くいかなかったこととその理由

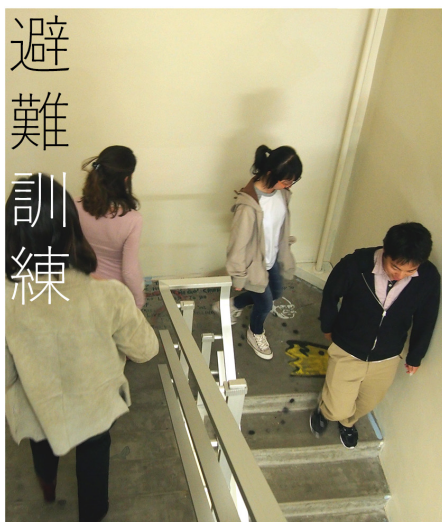
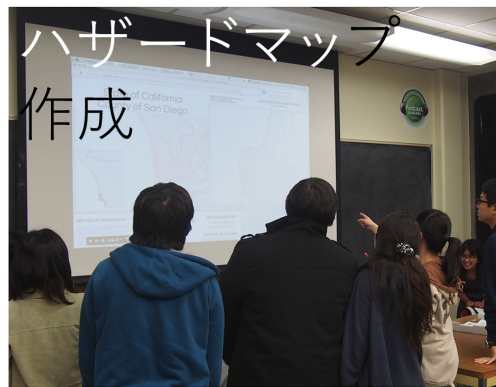
私が思うにチームワークが良かったです。イベント1と2、二つとも時間通りに終わらせることが出来たことと、イベント2で避難訓練をする時、階段を使うことが出来てイベント1での反省が活かされたと思います。イベント1の時には階段が閉まっていたし、私たちが一階で階段のドアが開いていることを前もって調べておかなかったので、八階までエレベーターを使うことになりました。もっと調べておけば良かったと思います。それに、参加者に配るものをいっとう配るかを決めておけば良かったと思います。

#### 3) イベント全体を通して学んだこと

私はこのイベントを通して、クラスの皆と連絡を取ることが大切だということを学びました。そして、連絡を取ることでチームワークも良くなることが分かりました。（キム）

以上









ハザードマップ作成



避難訓練



# イベント2



避難バッグの作り方





## メンバー紹介と一言コメント



### 自己紹介：トリッサ・デイビス

小さい頃、日本に7年間住んでいて、アメリカに引っ越してから中学校まで日本の補習校へ通っていました。それ以来、日本語をあまり使わなくなってしまい、少しずつ日本語を忘れていった気がしました。日本人とアメリカ人のハーフとして、日本語力を強めたいと思い、大学4年生になってから日本語クラスを取り始めました。色々な国へ旅して、それぞれの地域や文化のことを学ぶのが好きなので、国際学一言語学と日本学の二つを専攻しています。趣味は折り紙を折ることと美味しいものを食べることです。

### プロジェクトについての感想：

海の近くに住むUCSDコミュニティーの人々と一緒に津波の避難方法を学び、危機感を持ってもらうことが出来て、とても良かったと思います。アイデアだけとして存在した「津波から無事に逃げ隊」プロジェクトを、今学期イベントとして実現できて、とても嬉しいです。このプロジェクトをすることによって、主体性、自己管理能力、チームワーク力等のスキルを上達することが出来ましたし、とても楽しくて良い経験を得られたと思います。



### 自己紹介：ドンウ・キム

子供のころ、日本に3年間住んだ後、韓国に帰って1年後、日本語を完全に忘れてしまいました。でも、中学2年の時、つまり9年前から「日本語をまた話したいなあ」と思い、少しずつ自分で勉強をしました。そして、UCSDに来た時、日本語の勉強を確実にしたいと思い、日本語のクラスを取りました。私の専攻は数学で、趣味はアニメを観ること、ゲームをすること、そして、絵を描くことです。

### プロジェクトについての感想：

去年、JAPN135Cのクラスに途中で行けなくなったので、今年、このクラスを取ることができ、嬉しいです。そして、今年のプロジェクトは成功だったので、とても良かったと思います。こういうプロジェクトをするのは初めてだったので、楽しかったです。それに、日本語を話す機会も多くあったので、日本語の勉強にもなりました。それに、クラスの皆さんと何かを一緒にすることの楽しさをあらためて感じました。



### 自己紹介：クリスタル・ファム

色々な国を旅して、文化やグルメを楽しむことが大好きです。専攻は化学なのでハードなクラスばかりとっていました。なので、日本語135をとることで、笑いながら授業を受けることができ、学生生活のバランスが上手く取れました。

### プロジェクトについての感想：

災害はどこにいつか起こるのか予測できないものなので、このプロジェクトはとても有意義で、海の近くにあるUCSDは知って損はしない情報です。このイベントを通して、チームワークという素晴らしさを改めて感じました。そして、大勢の人の前で発表というのは久々で、緊張した分もありましたが、発表の盛り上げ方も幾つか勉強になりました。



**自己紹介：**マリナ・マッゴウ

高校2年生の時、日本に留学して、その機会に日本語を勉強し始めました。しかしそれは6年前の話で、その6年間の間に日本語をあまり勉強していなかったから少しずつ忘れてしまって、とても残念に思います。今、大学の5年生で今年卒業しますが、「また日本語勉強したいな！」と思い、JAPN 130やJAPN 135と一緒に取りました。アウトドアが大好きで、休みの日はハイキングやキャンプに行くのが好きです。

**プロジェクトについての感想：**

日本語だけではなく、4年間地学勉強していて、それに子供の頃から地学に興味がありました。地学で、地震、津波、火山などの災害話題がよく出ているので私はそれらについてよく考えています。海の隣のサンディゴに引っ越した時からこのトピックが気になって、JAPN 135で実際にできたのはすごく役立つと思います。若者はだいたい災害に危機感を持っていないと思いますので、少しでもこのプロジェクトでUCSDの人々の命を守れば幸いです。



**自己紹介：**ジャナ・ウスタリス

ハリウッド学園という日本語補習校でボランティアをしたことで、自分が知っている言語を人々に教えることが好きになりました。英語の教師と英語通訳者として働きたいので、言語学を専攻しています。12歳のとき、いつもアニメを観ながら「日本語はかっこいいな」と思い、軽い気持ちで日本語を勉強し始めましたが、今は日本語を大好きになり、大学を卒業してから日本で働けるように頑張りたいです。そして、イラストや静物画、色々なものを描くことが大好きです。

**プロジェクトについての感想：**

今年の日本語135Cクラスで、このプロジェクトを成功させることができ本当に嬉しいです。すごく楽しい時やちょっと辛い時もあったけれど、「私達が一所懸命がんばった」ということが伝わって、人々に津波に対する「危機感」を持たせることができたら幸いです。日本語でたくさん話し合いをすることで、日本語を話す能力が上達したと思いますし、たくさん人の前で発表することにまだ慣れていませんが、これからもっと頑張っていきたいと思います。



**自己紹介：**ペンボ・ザオ

小さいころから日本アニメとゲームの大ファンなので、なんとなくそれなりの量の単語や熟語がわかるようになりました。そして、「こんなに時間を費やしたから日本語をスキルとして身につけないともったいない！」というのがきっかけで日本語の勉強を始めました。さらに、日本は自分の専攻の電気工学領域も結構強い国なので、将来専門の資料を探す時にプラス得になる可能性もあります。今は日本語を副専攻として勉強しています。日本語を勉強することが趣味になりつ

つあることに気づいて、クールジャパン戦略の強さに感服しました。

**プロジェクトについての感想：**

今学期の135Cのプロジェクトは一年を通す135シリーズの集大成とも言えるものです。一学期丸ごと使ってプロジェクトをする経験はなかなかなく、これが大学で初めてなのです。そして、この「津波から無事に逃げ隊」の参加者に津波から自分を守る（自分を守る／自分のことが守れる）スキルを伝えて、そして参加者たちもこういうスキルを使って自分の大切な人を守るようになるという連鎖になるのが念願です。グループメンバーたちのチームワークもよく、先生とボランティアさん達からもたくさん助けていただきいいプロジェクトができたという実感があります。



**自己紹介：**内田一馬(ボランティア)

UCSD の Extension で英語を勉強しています。出身は大都会の東京（の隣の埼玉）です。何よりも食べることが大好きで、日本にいた時は毎週末どこか美味しいお店を探してフラフラしていました。一人で。サンディエゴでも、お財布が許す限り食べ歩きをしたいと考えています。大好物は天ぷら。座右の銘は「生きるために食べているのではない、食べるために生きているのだ。」

**プロジェクトについての感想：**

準備、計画、実行、そして反省と、すべてを学生主体で行っていたこのプロジェクト。どうやらうまくいくか、何を改善すべきかなど、あらゆる状況を想定して動くことは、自分たちの母語でも簡単ではありません。ましてや、資料からスライドまですべて日本語で準備し、発表したことは、彼らの能力と意欲の高さ故であると、驚きました。クラスの皆さんと、こうしてプロジェクトを遂行できたこと、時間を共有できたことは非常に楽しい経験でした。受け入れてくれたクラスの皆さんに、心から感謝しています。



**自己紹介：**森田直子(ボランティア)

結婚を機に渡米した 2015 年 1 月から、135 のクラスで 1 年以上ボランティアをしています。このクラスで日本語を活かして日本の問題について学び、プロジェクトに取り組む学生達をみて、日本語教育に将来の可能性を強く感じるようになりました。もともと日本語が好きで大学では日本語日本文学を専攻していましたが、実践的な部分をさらに深く学び、将来は日本語の先生になりたいと思っています。

**プロジェクトについての感想：**

この津波防災プロジェクトは、東日本大震災で津波が起きた時の様子について調査をしたり、現地の日本人の方に skype でインタビューをしたりして、「何が問題か」ということを見つけるところからスタートしました。最終的にイベントを実施し、多くの参加者の方々に津波からの避難方法について知ってもらうことができました。学生達が長期に渡って取り組んで来たプロジェクトが成功し、とても嬉しかったです。



**自己紹介：**正木智子(ボランティア)

日本で 10 年間、中学校の英語教育に携わり「UCSD で TEFL を勉強したい」という強い決心の元、2 年間、長期自主研修をしていました。本来であれば、日本に帰って、今頃は、バリバリ中学生に英語を教えているはずだったのですが、、、こちらで日本語を勉強している学生達のお手伝いをさせてもらっています。この 135 というクラスは PBL/TBL を取り入れている、画期的なクラスです。その授業に参加させて頂き、みなさんと一緒にプロジェクトを作ることができて、光栄に思っています。

**プロジェクトについての感想：**

Week 1 や Week 2 はまだまだ手探り、という感じで進んで行きましたが、イベントが近づくにつれ、皆がきちんとそれぞれの役割をこなしていったことに感服しました。また、自分の担当以外でも、ボランティアを買って出てくれたりと、そういった積極的な態度とチームワークが今回の成功の鍵になったと思います。私の持っているバックパックの一つを防災袋にしましたよ！





### 自己紹介：エリクソン由理(ボランティア)

JAPN135 のクラスで冬学期からボランティアをしていました。子どもが大好きで日本、カナダ、アメリカで幼児教育に携わってきました。趣味はアウトドアスポーツで、週末はよくキャンプ、ハイキング、ビーチなどに行きます。最近ではシュノーケリングにはまっています。JAPN135 のクラスでは学生たちが「チーム」として協力してプロジェクトに取り組むという大切なスキルを習得していく姿を近くで見ることができました。冬学期は試行錯誤しながらのチームワークでしたが、春学期になるとチームの中での自分の役割、お互いを思いあって協力するという力を確実に身につけていました。私自身学生からたくさんの刺激を受けることができました。JAPN135 という最高のチームに出会えたことに感謝しています。

### プロジェクトについての感想：

危機感を持ち、防災対策を事前しておくことが大切だと考える人は多いと思います。しかしそれを実際に行動に移している人は少ないと思います。そのような中で今回のプロジェクトを学生自身が自主的に取り組み、またイベントという場でたくさんの人に伝えたということはとても意義のあることだと思います。私自身、家族と避難の仕方について話したりと今回のプロジェクトを通して危機感を高めることができました。



### 自己紹介：武田泉（講師）

JAPN135 コースを教えている講師です。出身はお米とお酒が美味しい秋田県です。スパやマッサージが大好きで、日本のファッション雑誌を読んだり、温泉に入ったりすることが趣味です。料理も好きで、時々お菓子を作って学校に持っていきます。この日本語クラスを通して、多くのクリエイティブな学生やサンディエゴにいらっしゃる日本人の方々と出会いました。そして学生とコミュニティーをもっと繋げたいと思いました。参加した人に「役に立った&楽しかった」と思ってもらえるようなクラスが作れるように頑張っています。

### プロジェクトについての感想：

JAPN135 コースがスタートして、今年で3年目です。毎年「課題先進国、日本」というテーマで日本の社会問題について話し合ったりリサーチをしたりしています。春学期には毎年「社会貢献プロジェクト」として、学生が企画したイベントやプロジェクトを実際に行っています。2016年春は、個性溢れる学生たちとボランティアの皆さんの素晴らしいチームワークにより、無事に「津波防災訓練プロジェクト」を成功させることができました。私自身、イベントで改めて「危機感を持つこと、準備することの大切さ」を学び、とても大きな達成感がありました。



Thank you for the  
fun and informational  
time! You were so  
AWESOME!

とても楽しかった！  
色々な事を学びたい  
になりました！  
आज 정말 좋았어요!  
आ 감사합니다 😊

とても楽しいイベントでした！  
ありがとうございました。  
ランとラマでできて  
ほしい方もありがとうございます。  
いいプレゼンでした！

みなさん本当に  
あつが来よかったです！  
Awesome presentation!  
ホーレスーラマちゃんー

# みんなからの一言

😊  
毎週楽しみにしています。  
次回も楽しみにしています。  
ありがとうございました。

すごくおもしろいけど、たごす...!  
たくさん知識を学びました！  
先生もやさしいけど、たごす!>ω<  
来年のクラスやプロジェクトも楽しんで  
していきます! OωO!

今日たのしが、たごす♡!

ありがとうございます!

感謝です ← 中国語だよ

Hilda

「バビ」が「ス」で「プロ」  
準備ができて大活躍  
してくれました。中村

とても役に立つイベントでした  
ありがとうございます! Tok

とても分かりやすかったです!  
日本語が上手で、見  
勉強になりました!

.....

😊